

キーワード 金澤町家、修復、水引

特定非営利活動法人

金澤町家研究会

ミッション

金澤町家の継承・活用にむけて、町家居住や町家保存に関心のあるあらゆる人に対して、町家の修復等に関する研修事業、町家を利用した交流事業、情報発信事業を行っています。貴重な都市資産である金澤町家が減少している傾向に歯止めを掛け、金沢市における風格と魅力ある街並み形成の促進および市民主体のまちづくりの推進に寄与したいと考えます。

設立年月 2008年2月（前身の団体は2005年6月）

メンバー数 126名

代表者名 川上光彦

石川県金沢市東山 2-1-7

TEL 076-229-7831 FAX 076-229-7831

kanazawa-machiya@nifty.com

<http://webserv.ce.t.kanazawa-u.ac.jp/kawakami/machiya/index.html>

<http://machiyaiken.exblog.jp/>

※ 2009年10月以前は下記へご連絡ください。

金沢市上柳木畠 4-1 202

TEL 076-263-6380 FAX 076-263-6384



活動地域
石川県金沢市中心市街地

下：「町家 de マナブ」昼職人の話を聞く参加者

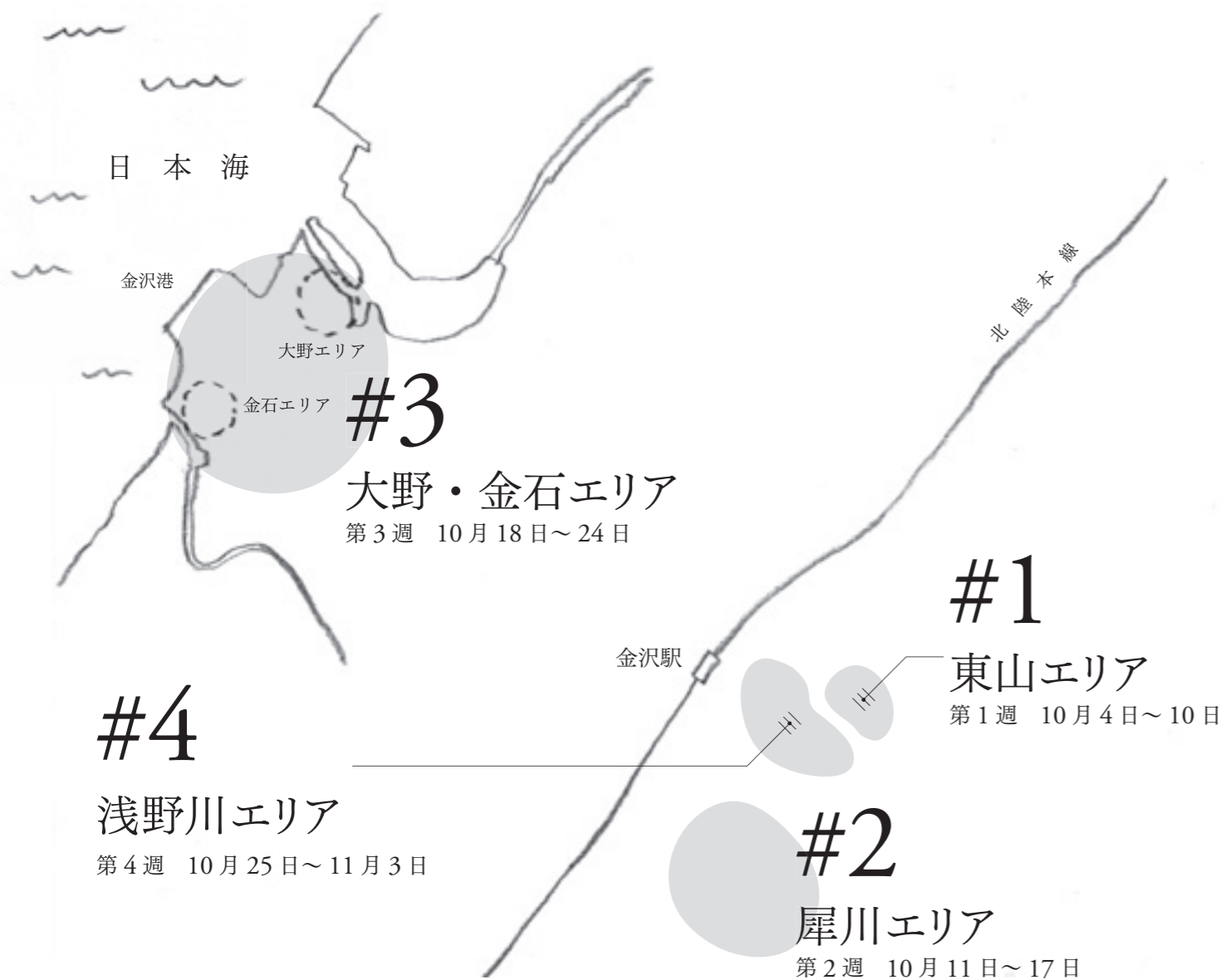
◎私たちが行ったこと

「町家巡遊 08 ひと・わざ・暮らしの町家展」の開催

4つのエリアと4つの基本プログラム

会場を提供していただける町家33軒を選定し、市内を4つのエリアに区分しました。2008年10月3日から11月3日の1ヶ月間、1週間ごとに異なるエリアでプログラムを展開することにしました。第1週が東山エリア、第2週が犀川エリア、第3週が金石・大野エリア、第4週が浅野川エリア。毎週末、エリアごとにプログラムを集中させ、それぞれのエリア内を回遊してもらえるように企画しました。





プログラムは大きく4つで構成されています。

- 「町家拝見」
- 「町家 de マナブ」
- 「町家 de アート」
- 「住みたい町家を探そう」
- 関連イベント__5プログラム

- お住まいを特別にその日だけちょっと覗かせてもらう__13プログラム
- 町家を仕事場に行っている職人からお話を聞く__13プログラム
- 町家を舞台空間として演劇やアート展、演奏を楽しむ__14プログラム
- 賃貸や売却物件となっている町家を見学してもらう__2プログラム

右：目印の水引
下：イベントの様子



私たちが大切にしていること
市民の方々、とりわけ町家所有者や住まい手の方々に、町家の素晴らしさを知っていただき、町家を大切に使い続けてもらうことを目標として活動を展開しています。

金澤町家とは
戦災を免れた城下町・金沢には数多くの歴史的建物が現存する。昭和25年以前に建てられた商人や職人の住宅、武家屋敷や足軽住宅、そして西洋の建築様式を取り入れた近代和風住宅を総称して金澤町家という。金沢特有の気候風土や暮らしの文化に適應する様々な知恵、材料、技が活用されている。

事業の告知方法

活動紹介ブログ

水引細工が目印

イベント会場となる「金澤町家」と「町家ショップ」の軒先に水引細工のオブジェを吊るすことにしました。その球体は、水引細工の基本形「あわじ結び」で編んでもらいました。左右の輪が互いに結び合い、両端を持って引っ張るとさらに強く結ばれることから、末永くおつきあいたいという意味を持ちます。町家どうしあるいは町家とその住まい手の親密なネットワークを築きたい、そうすることにより町家がむやみに取り壊されていく流れに歯止めをかけたい、そのような強い願いを込めてオリジナルデザインの水引細工を市内の水引工房に作ってもらいました。「これは何ですか？」と、市民や来訪者と町家ショップとの間でコミュニケーションが生まれることも期待しました。

リーフレットを15,000部印刷し、各会場や町家ショップ、金沢21世紀美術館などで配布しました。

事業プログラム内容や町家の写真、チラシなどを「町家巡遊08公式ブログ」に掲載し、web上でアクセスし閲覧してもらいました。
<http://machiya08.exblog.jp>



町家 de マナブの参加者数	開催日	タイトル	参加者数	定員
	10月4日	もやしものすみか	15	15
	10月5日	足るを知る	18	15
	10月11日	庭師と町家の暮らし	22	15
	10月11日	町家修復セミナー	13	15
	10月12日	畳とすまいの話	25	15
	10月19日	町家の古道具	13	10
	10月19日	アロハが似合う訳	9	15
	10月25日	模型づくり	20	10
	10月25日	火鉢を囲んで	14	10
	10月26日	建具屋の話	11	10
	11月1日	茶の湯釜づくり	18	15
	11月3日	金澤町家セミナー	50	40
合計			228	185

参加者数

「町家 de マナブ」と「町家 de アート」の有料プログラムについては、事前申込制としたため、参加者名と正確な人数を把握できませんでした。前者は総数 228 名（プログラム 18 は直前に中止）、平均約 20 名、後者は総数 176 名、平均約 35 名の参加がありました。

その他のプログラムは参加者数を計測していなかったのではっきりしませんが、「町家拝見」のプログラムでは、2 日間で 300 ～ 400 名が訪れた町家もあり、毎週 500 名と想定すると会期中に約 2 千名が参加したものと推察されます。

また「町家拝見」プログラムは、基本的にスタッフが公開するのに相応しい町家に個別に交渉して、協力をお願いしました。

伝統ある空間と現代アートとの調和が美しかった。町家という場を通じて、人と人のコミュニケーションが図られ、五感に働きかける繋がりが素晴らしい。

イベント参加者の声

町家 de ライブ・演劇の参加者数	開催日	タイトル	参加者数
	10月5日	第1回ライブ	30
	10月12日	第2回ライブ	61
	10月19日	第3回ライブ	22
	10月19日	演劇かき	23
	10月26日	第4回ライブ	40
合計			176

アンケートの実施

各種プログラム参加者のうち、437 名の方々がアンケート調査に協力してくださいました。

回答者の属性：30 代以下の若い方が半数を占め、性別では男性女性共に半々、金沢市外の方が 23% を占めています。その他、情報の入手先、参加プログラムと町家会場の感想、今後期待するプログラム等の質問を行いました。

団体設立経緯

建物の老朽化や相続等の問題から町家を取り壊され、空き地や駐車場へ転換されるケースが多くなってきた。町家の継承・活用について市民の側から考えようと、町家に関心のある市民、研究者、建築技術者、まちづくりコンサルタントらが集まって、任意団体として発足した。1999 年度にまちなかで 10,900 棟あった町家が 2007 年度には 8,700 棟になるなど、8 年間に約 2,200 棟が消滅している。さらに、2008 年度に実施された町家実態調査（金沢市からの委託を受けて団体が実施）によれば、約 7,100 棟であることが判明している。

右ページ：町家修復現場の見学の様子

「住みたい町家を探そう」

開催概要

第1回は10月4日(土)～5日(日)に開催し、賃貸物件2軒、売買物件3軒(うち1軒は成約済み)を公開しました。第2回は11月2日(日)に開催し、賃貸物件3軒、売買物件3軒を公開しました。



町家1
尾張町2丁目
貸店舗
公開：第1回、第2回
かなざわ町家情報バンク掲載物件
06・07年度の活用モデル事業町家



町家5
東山3丁目
売家
公開：第1回、第2回
町家巡遊実行委員会スタッフの
知人からの紹介



町家2
東山2丁目
貸店舗
公開：第1回、第2回
町家巡遊実行委員会スタッフの知人
からの紹介



町家6
東山3丁目
貸家・貸店舗
公開：第2回
町家相談会の相談物件



町家3
東山2丁目
売家
公開：第1回、第2回
現地に「売り物件」の表示あり



町家7
幸町
売家
公開：第2回
町家巡遊実行委員会スタッフの
知人からの紹介



町家4
東山3丁目
成約済売家
公開：第1回
かなざわ町家情報バンク掲載物件

第1回と第2回を合わせた3日間の延べ参加グループ数は171グループ、延べ参加人数は284名でした。



団体が実施している事業内容

- ・町家の調査事業(金沢市や大学等研究機関との連携による学術的な調査研究)
- ・町家の修復相談事業(相談会の実施や改修等の参考資料の作成)
- ・町家修復のための研修事業(町家の継承や担い手育成のためのワークショップや市民講座等の企画・実施)
- ・情報発信事業
- ・町家を活用した交流事業(空き町家を活用し、謡やお茶の披露、地域サロン、短期滞在型の宿泊施設等の事業)の企画・実施
- ・他地域との交流等

町家修復関係者との連携強化と修復事業の統括的組織の検討

金澤町家修復関係者技術交流会を2回開催しました。修復現場の見学では、設計担当者と大工棟梁が修復箇所と工法などを説明して、その後修復技術について意見交換を行いました。建築専門家のほか一般市民の参加もありました。この交流会を通じて、金沢市建築組合幹部の方々と私たちNPOのメンバーとのコミュニケーションが深まりました。

◎私たちが伝えたかったこと

1. 多様なプログラム参加を通じて町家の素晴らしさを市民に広く知ってもらおう
コンサートやアート展、レクチャー等、様々なプログラムを提供することにより、ふだんは入ることができない町家の中に入ってもらい、外観だけでなく中の様子もじっくりと味わってもらいたいと考えました。
2. 「わぁ素敵ですね」という言葉により家主のプライドをくすぐる
町家を訪れる人たちが、外からは想像できないような素敵な住まい方をされているのを見て、口々に「素敵」、「こんな住まい方もいいね」という言葉を発します。その褒め言葉を聞く度に、家主は町家住まいに誇りを感じ、これからも住み続けなきゃ!という思いを強くします。

3. 町家に住んでみたい人と空き家を繋げる

町家の所有者は「こんな町家は売ったり、貸したりできるはずがない」とはなから諦めています。不動産業者も「中古物件」というくくりで扱い積極的ではありません。そのため、町家に住んでみたい人が潜在的に増えているにも関わらず、不動産情報にあまり載っていないため探せないというのが実態です。そのようなミスマッチを解消して、一人でも町家住まいの方が増えることを期待しました。

4. 市街地を回遊する楽しみを増幅させる

金沢 21 世紀美術館が主催している「アートプラットフォーム(町家を改修してアート作品展示や宿泊体験プログラムを実施)」と開催期間を重ね、町家とアートが連携した形で市街地を回遊する人が増えることを狙いました。

◎エピソード

準備期間が2ヶ月余りと短かったので、企画内容は変更の連続でした。

「町家拝見」では、その会場の近所の方が多く見学にいらっしやっしたのは驚きでした。ふだんはどのような室内なのか興味があっても、こういう機会でないとなかなか覗くことができないことの現れで、近所づきあいのコミュニティを醸成するチャンスを提供できたものと考えます。

「住みたい町家を探そう」では、近所の方が「ここも空き家ですよ」と教えてくださるとか、「所有している町家をなんとかしたい」と言われるなど、新たな情報を集めることにも繋がりました。

昔ながらの町家空間は、落ち着きがあり、心が和む。通りとの一体感があって、通りすがりの方も中を覗くことができている。

空き家見学参加者の声

LLP 金澤町家

町家巡遊 08 を通じて、今住んでいる町家を修復したい、町家に住んでみたいという意向を持つ人が増えてきた。また、金沢市が運営する金沢職人大学校では、職人達を再教育する制度があり、修復について3年間研修する修復専攻科を修了した「歴史的建造物修復士(設計士と職人)」は90名を数える。しかし、資格を習得しても修復の現場になかなか就けないという課題があった。町家を介した双方のニーズを繋ぎ、社会的課題を解決するために、団体が母体となって町家改修における実際的な業務を行うための有限責任事業組合(LLP 金澤町家)を組織した。修復を受注した場合、その工事は修復士の資格を持つ大工棟梁をリーダーとする技術者が請け負うことにしている。

町家ドミトリー

町家を修復し、留学生2人と日本人学生1人の共同生活に相応しい空間をつくる予定。国土交通省の補助事業に選ばれたため、2009年度は空き町家を半年間借用し、ドミトリー生活の社会実験をするとともに、空き町家のドミトリー改修の設計提案を行う。またそれとは別に、金沢市の町家再生活用モデル事業のひとつに、町家をドミトリーとして改修する事業が選ばれたので、これから改修して2010年の春にオープンする予定。NPOの自主的な改修物件も1軒考えており、併せて2軒同時オープンを目指す。

◎私たちの“これから”

町家住まいを希望している方々に対して、町家の物件を提供しやすくなりました。また、その空き町家の改修にあたっては、LLP(有限責任事業組合)金澤町家という受け皿が整えられ、技術力を持った職人や設計士が対応できるようになりました。

さらに、大学等の高等教育機関が集積する「学都金沢」において、留学生や大学生らに空き町家を提供する「町家ドミトリー」の事業化の検討も始まりました。

◎私たち自身で活動を評価

プレイベントとして開催した「町家巡遊 08」は一定の成果を収め、市民の間で町家が話題に上るようになり、今年度の本開催「町家巡遊 09」へと繋がりました(09は金沢市から財政的支援あり)。今回の活動で町家をプログラム会場として活用した結果、その町家に借り手が付いたり、所有者が町家を不動産物件として考え直すようになったりしました。また、不動産関係者もこれまでは単なる中古物件と捉えていましたが、町家が取引の対象となるというように認識を改めだしたようです。

町家の住まい手の方々も誇りを持ち始め、町家同好会のような組織づくりが始まりました。このように、町家の市場流動性が高まり、取り壊され続ける動向に小さな歯止めが掛かりつつあるといえます。